

## 大滝ダム貯水池内における 赤茶褐色の湖面の変色について（第3報）

○平成28年10月13日、大滝ダム上流下井戸橋付近の貯水池内で確認された毛藻綱 もうそうこう ペリジニウム\*1を原因とする、赤茶褐色の湖面の変色について監視を行ってききましたが、発生後約一ヶ月経ちましたので現状をお知らせします。

○平成28年11月14日10：30現在赤茶褐色の変色は10月13日時点より、約5km上流武光橋付近で確認されています。

○平成28年11月11日に採水を行い、再度分析を行ったところ原因は10月13日と同じ渦鞭毛藻綱 うずべんもうそうこう ペリジニウムであることが確認されました。

○発見時(10月13日)とくらべ、数も減少し(約10分の1に減少)ていますが、引き続き監視を続けます。

○渦鞭毛藻綱 うずべんもうそうこう ペリジニウムは植物プランクトンの一種であり、各地の湖沼や池に広く分布し、冷水期に出現して赤潮を形成することもあります。おおよそ、表層水温が15℃前後の時期より出現しはじめ、24℃以上になると消滅します。毒性やカビ臭の報告はなく、人体に影響はありません。

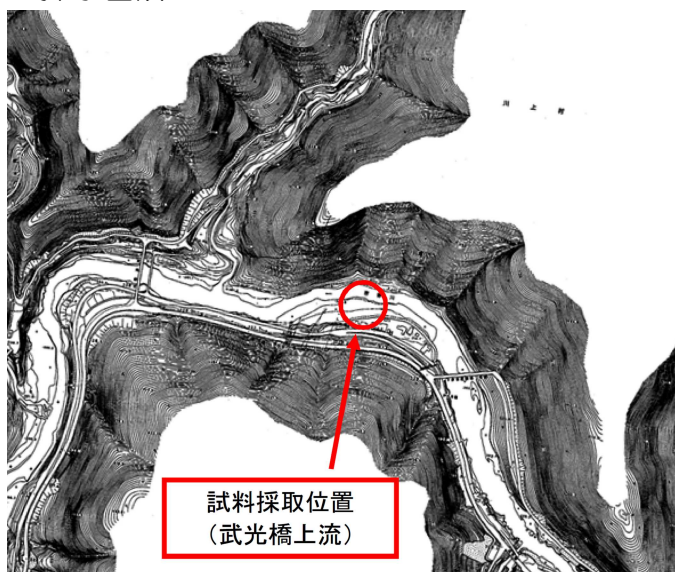


\*1：原因種は渦(うず)鞭(べん)毛(もう)藻(そう)綱(こう) *Peridinium bipes* でした。

*Peridinium bipes*は多くのダム湖や天然湖で多量に発生することが知られており、わが国における淡水赤潮の大半は本種による。本種による赤潮は、富栄養化とは関係のない水域で多く起こっており、原因を水中のカルシウム塩濃度に求める考えもあるが、まだ定説となるには至っていない。

※ 1目盛=10μm

○採水箇所



武光橋上流付近

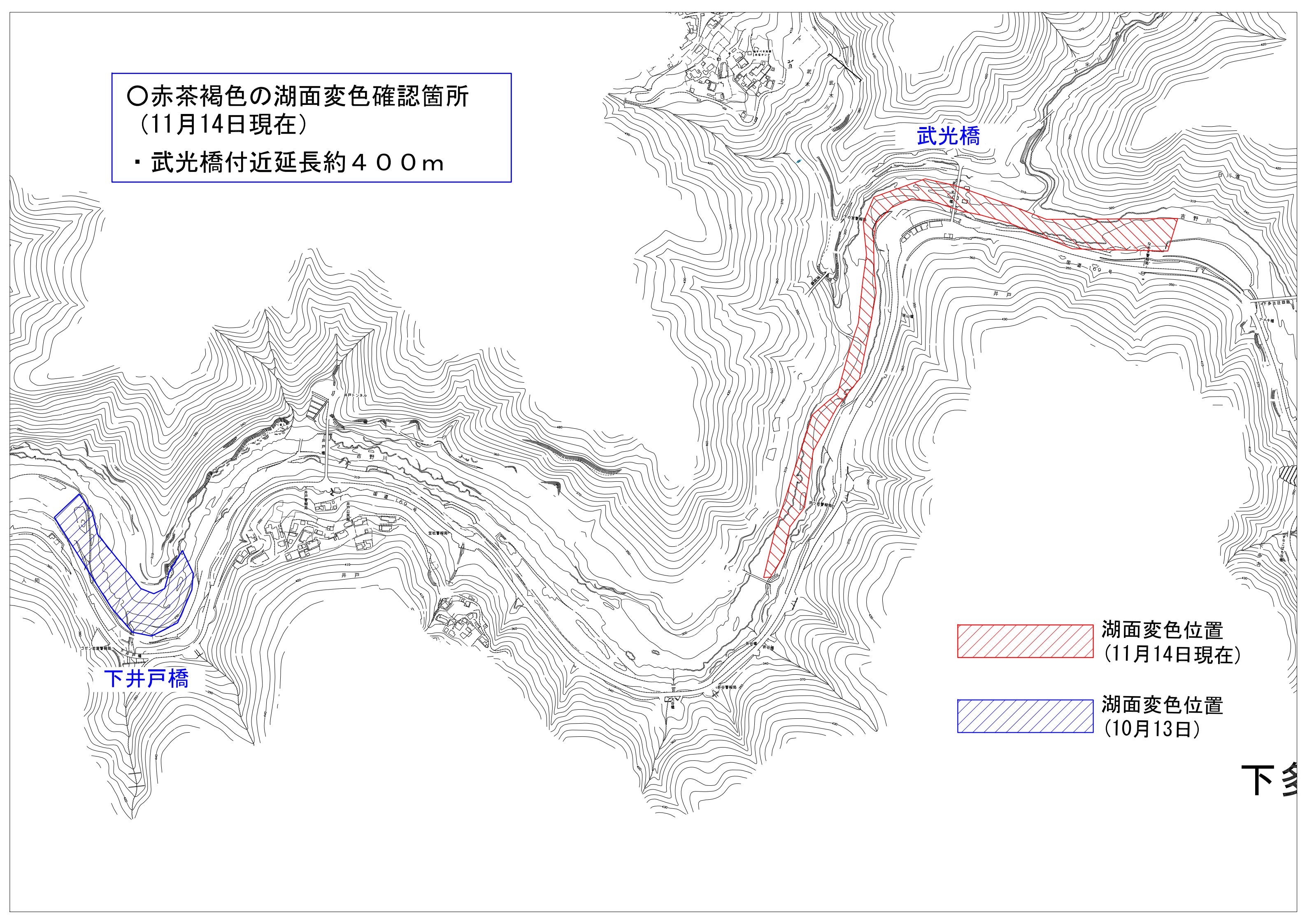
○プランクトン同定試験結果

堰名		大滝ダム		調査年(西暦) 2016年	
堰コード					
1 調査コード					
2 調査地点				武光橋 上流	
3 採水位置				左岸	
4 全水深				m	
5 調査月				11	
6 調査日				11	
7 調査開始時刻:時24時間制				11	
8 調査開始時刻:分				55	
9 天候				曇	
10 気温				℃	
				16.3	
18 採水水深				m	
				0.1	
20 透視度 (河川)				cm	
				>100	
21 外観				淡赤褐色透	
22 臭気 (冷時)				無臭	
綱名	科名	種名 (学名)			
クリプト藻	Cryptomonadaceae	<i>Cryptomonas</i> sp.		+	
		CRYPTOPHYCEAE		+	
渦鞭毛藻	Peridiniaceae	<i>Peridinium bipes</i>		+	
珪藻	Thalassiosiraceae	Thalassiosiraceae		+	
	Diatomaceae	<i>Asterionella formosa</i>		+	

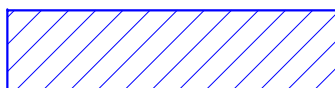
凡例 : + 少ない、 ++ 多い、 +++ 非常に多い

○赤茶褐色の湖面変色確認箇所  
(11月14日現在)

- 武光橋付近延長約400m



 湖面変色位置  
(11月14日現在)

 湖面変色位置  
(10月13日)

下多